

各 位

令和7年度稲作情報 第1号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和7年度 稲作情報 第1号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6 分割。1 半旬は 1～5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7
3	3	10.0	11.2	14.4	15.4	5.6	8.3	19.6	23.5	28.1	16.0
	4	10.7	6.0	15.3	10.0	6.3	2.3	19.0	23.0	28.9	13.2
	5	11.2	16.7	15.8	23.3	6.8	11.3	19.0	0.0	30.3	51.1
	6	12.1	12.7	16.8	17.0	7.7	8.9	23.9	12.5	37.8	32.8
4	1	13.0	11.1	17.7	16.9	8.8	6.0	22.9	0.0	30.7	35.9
	2	13.5	15.7	18.1	21.5	9.4	9.7	24.6	0.0	30.0	46.3
	3	14.0	12.4	18.6	18.0	9.9	7.6	25.1	20.0	30.4	33.3
	4	14.7	19.6	19.3	25.5	10.5	14.3	24.8	1.5	30.6	41.5
	5	15.4	15.5	20.1	19.5	11.1	11.6	22.4	8.0	32.0	14.3
	6	16.4	15.4	21.2	22.5	11.9	9.1	19.6	8.5	34.4	52.8
5	1	17.4	16.5	22.4	22.9	12.8	11.0	20.1	24.0	35.5	46.2
	2	18.1	16.5	23.1	21.3	13.6	12.8	24.4	53.5	35.0	25.9

育苗期間である3月4半旬から4月3半旬の気温はおおむね平年並みで推移したが、3月4半旬は平年より4℃低く、同月5半旬は平年より5℃高いなど、寒暖差が大きかった。移植が始まった4月4半旬は平年より5℃程度高かったが、その後5月2半旬にかけてやや低く推移した。

育苗期間中は全体を通して降水量が少なく、3月6半旬から4月3半旬にかけて降雨のない日が14日間続いた。4月4半旬以降も少雨が続いたが、5月から平年並みとなり、5月9日には50mm以上のまとまった降雨がみられた。

3月3半旬から同月4半旬にかけて曇天が続き、日照時間は平年より短く推移した。3月5半旬以降の日照時間は平年より長く推移した。

2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4月25日移植 17.8株/m²(59株/坪)

(5月12日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	22.9	30.5	27.4	75	84	低い
茎数(本/m ²)	71	74	97	96	73	少ない
葉齢(L)	5.2	6.2	6.1	-1.0	-0.9	遅い
葉色(SPAD)	29.2	28.1	32.7	1.1	-3.5	薄い
葉色(葉色板)	3.3	2.8	3.9	0.5	-0.6	薄い

※平年値:平成30年～令和6年までの値から最高・最低値を除いた平均値

3月23日に播種し、定植時の苗丈は13.7cm(平年値15.8cm)、苗齢は3.1L(平年値3.0L)であった。

播種後の低温により苗丈が低くなり、草丈も平年の8割程度と低く推移している。移植後の気温が平年よりやや低く推移したため、やや生育は遅れ、平年と比較して出葉数は少なく、茎数も平年の7割程度となっている。葉色の発現も遅れているものの、活着はよい。表層剥離がみられる。

3 今後の管理について

(1) 水源等の点検を行い用水の有効活用を図る。

今年に入り、降水量が少ない状況が続く、ダムやため池で貯水率が低い状態が続いています。水系毎に用水路及び畦畔の整備状況を確認し、漏水や落ち水がないように留意してください。

(2) 浅水管理の徹底により分げつの発生を促進し茎数の確保を図る(田面が露出しない程度)。

除草剤の処理を終えた圃場では速やかに浅水管理に移行し、分げつの発生を促進してください。深水のままでは葉身が伸び過ぎ、分げつの発生が抑制され、今後の生育(収量)に支障をきたします。

(3) たい肥等の有機物をすき込んでガスの発生が多い圃場では、一度落水しガス抜きを行う。

ただし、強風の場合は稲体の水分収奪を少なくするために湛水してください。

(4) 補植が終わった圃場では、置き苗を早急に処分する。

置き苗は病害虫、特に「いもち病」の発生源となるので処分してください。

(5) まだ除草剤を散布していない場合は速やかに散布する。

除草剤を散布していない圃場では雑草の葉齢を確認して使用時期の範囲内で速やかに散布してください。ただし、表層剥離等で流れ葉となっている圃場では稲の回復を待って除草剤を散布してください。

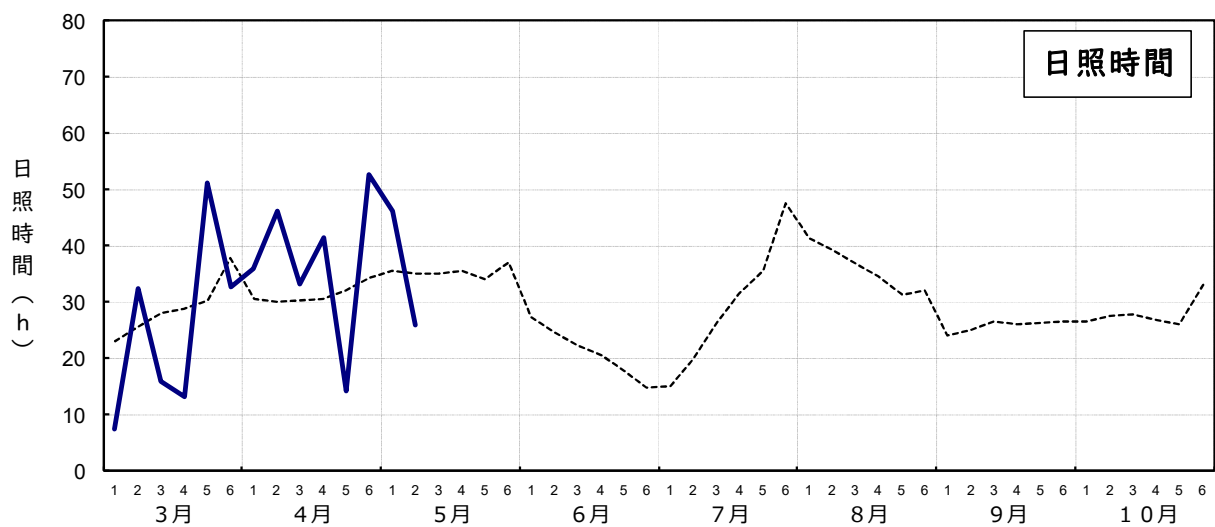
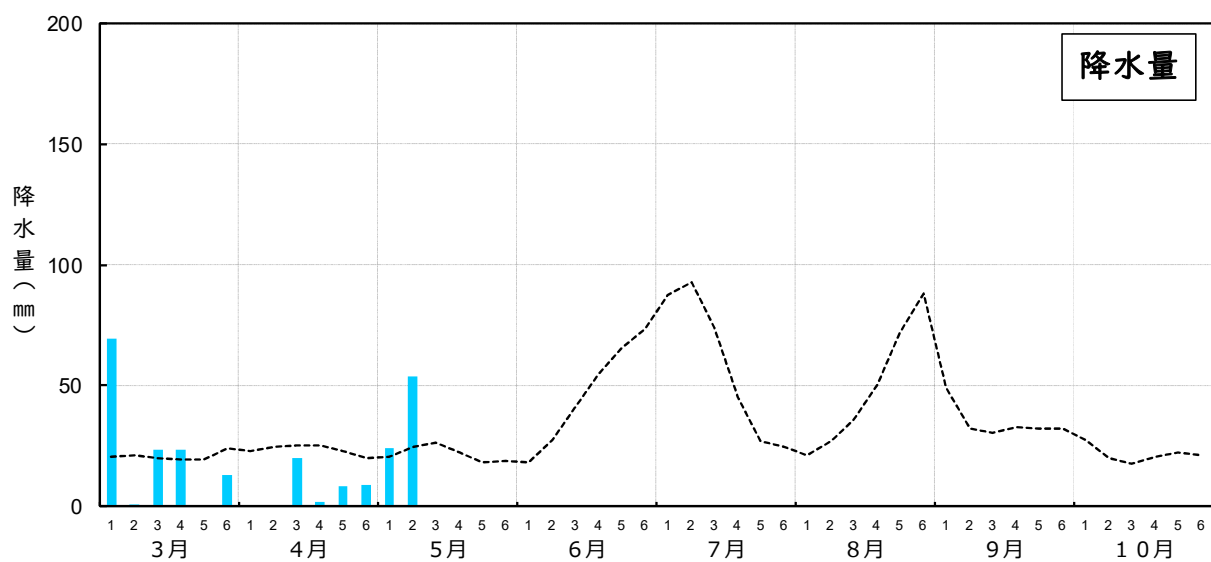
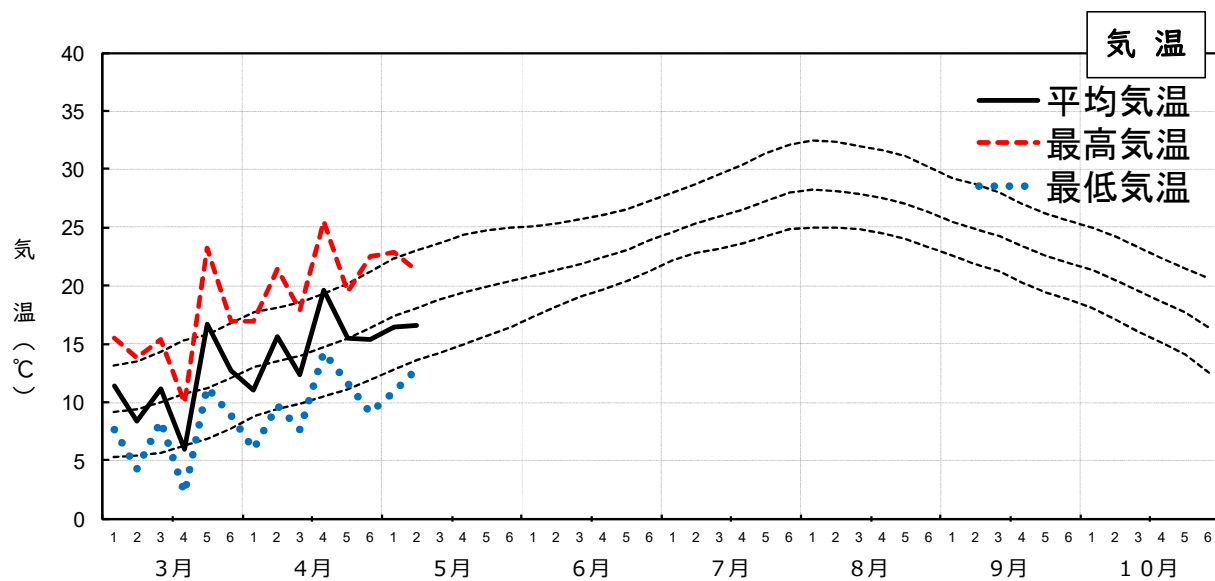
(6) 除草剤処理後に用水不足がみられた場合は体系防除を検討する。

除草剤処理後10日以内に湛水深が確保できなかった場合、効果の低下が考えられるため、雑草の発生状況を見ながら中・後期剤による体系防除を行ってください。

(7) スクミリンゴガイが多発する圃場では浅水管理に努める。

スクミリンゴガイが多発する圃場では、浅水にして貝の活動の抑制に努めてください。また、必要があれば薬剤防除を実施してください。

令和7年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年～令和 2 年の平均値